

平成 28 年度

地球環境「自然学」講座

第 7 回

テーマ

コウノトリの里づくりが拓く未来

講師

豊岡市長

中貝 宗治 先生

平成 28 年 7 月 9 日(土)

NPO法人・シニア自然大学校

講師プロフィール

中 貝 宗 治（なかがい むねはる）

【生年月日】昭和 29（1954）年 11 月 4 日、兵庫県豊岡市生まれ。

【住 所】兵庫県豊岡市下宮（しものみや）499 番地の 1

【学 歴】豊岡市立三江小学校・市立豊岡南中学校・

兵庫県立豊岡高校を卒業

京都大学法学部卒業（昭和 53（1978）年 3 月）

大阪大学大学院経済学研究科経営学専攻前期課程修了
（昭和 62（1987）年 3 月）



【職 歴】

昭和 53（1978）年 4 月	兵庫県庁 入庁
昭和 60（1985）年 4 月	大阪大学大学院経済学研究科 派遣
平成 2（1990）年 12 月	兵庫県庁 退職
平成 3（1991）年 4 月	兵庫県議会議員 当選
平成 7（1995）年 6 月	兵庫県議会議員（2 期目） 文教常任委員長 就任
平成 11（1999）年 4 月	兵庫県議会議員（3 期目）
平成 11（1999）年 6 月	総務常任委員長 就任
平成 12（2000）年 4 月	自民党県議会議員団政務調査会長 就任
平成 13（2001）年 6 月	兵庫県議会議員 辞職
平成 13（2001）年 7 月	豊岡市長 就任
平成 17（2005）年 3 月	合併による新市設置のため豊岡市長 退任
平成 17（2005）年 5 月	新「豊岡市」市長 就任
平成 21（2009）年 5 月	豊岡市長（2 期目）
平成 25（2013）年 5 月	豊岡市長（3 期目）

【主な公職】 豊岡市長

北但行政事務組合管理者

但馬広域行政事務組合管理者

一般社団法人豊岡観光イノベーション理事長

【著 書】 「鶴（こうのとりの）飛ぶ夢」（平成 12（2000）年 7 月）

【好きな言葉】 “夢はでっかく 根は深く”

“願うこと 願い続けること 投げ出さないこと”

コウノトリと共に生きる

～豊岡の挑戦～



提供: 南富士光芸社

昭和35年 出石川(豊岡市) 農家の女性、但馬牛とコウノトリ

何を失ったのか どのように取り戻すのか

兵庫県豊岡市



1. コウノトリ野生復帰が目指すもの

平成17年(2005年)9月、日本の自然界で一度は姿を消したコウノトリが、40年に及ぶ人工飼育を経て、再び豊岡の空にはばたきました。一度消滅した野生動物を飼育下で繁殖させ、かつての生息地である人里に帰していくことは、世界にも例のない壮大なプロジェクトです。膨大な時間とエネルギーとコストをかけて、それでも豊岡がコウノトリの野生復帰の取り組みを続けてきたのはなぜか。豊岡は何を目指しているのか。

コウノトリとの“約束”を果たす

私たちは、絶滅の危機に瀕していたコウノトリを救う最後の手段として、野生のコウノトリを捕獲して人工飼育する道を選びました。コウノトリを檻の中に閉じ込めたとき、「いつか、きっと空に帰す」と約束しました。

約束は果たされなければなりません。



コウノトリの捕獲

種の保存に関し、国際的な貢献を行う

コウノトリ(Oriental White Stork)の数は世界でわずか3,000羽程度にまで減っているといわれています。

コウノトリが安心して生息できる環境を保存・再生・創造していくことにより、日本最後のコウノトリの生息地として果たすべき国際的役割を担っていきます。



平成19年 コウノトリの巣立ち(国内の野外では46年ぶり)

コウノトリも住める豊かな環境をつくる

コウノトリは里の自然生態系の頂点に立つ肉食の鳥です。コウノトリが野生で生息するためには、里山や田んぼ、川や水路に多様で膨大な生きもの(エサ)がいる「自然環境」が必要です。

また、私たちの心と体に深く染み込んだ生活様式と価値観が、環境を破壊しコウノトリを絶滅に追い込んでいきました。コウノトリを暮らしの中に受け入れていく「文化環境」を再生することも必要です。

コウノトリも住める豊かな環境(自然と文化)は、人間にとっても持続可能で健康的に暮らせる環境であるに違いありません。



コウノトリのとなりで農作業

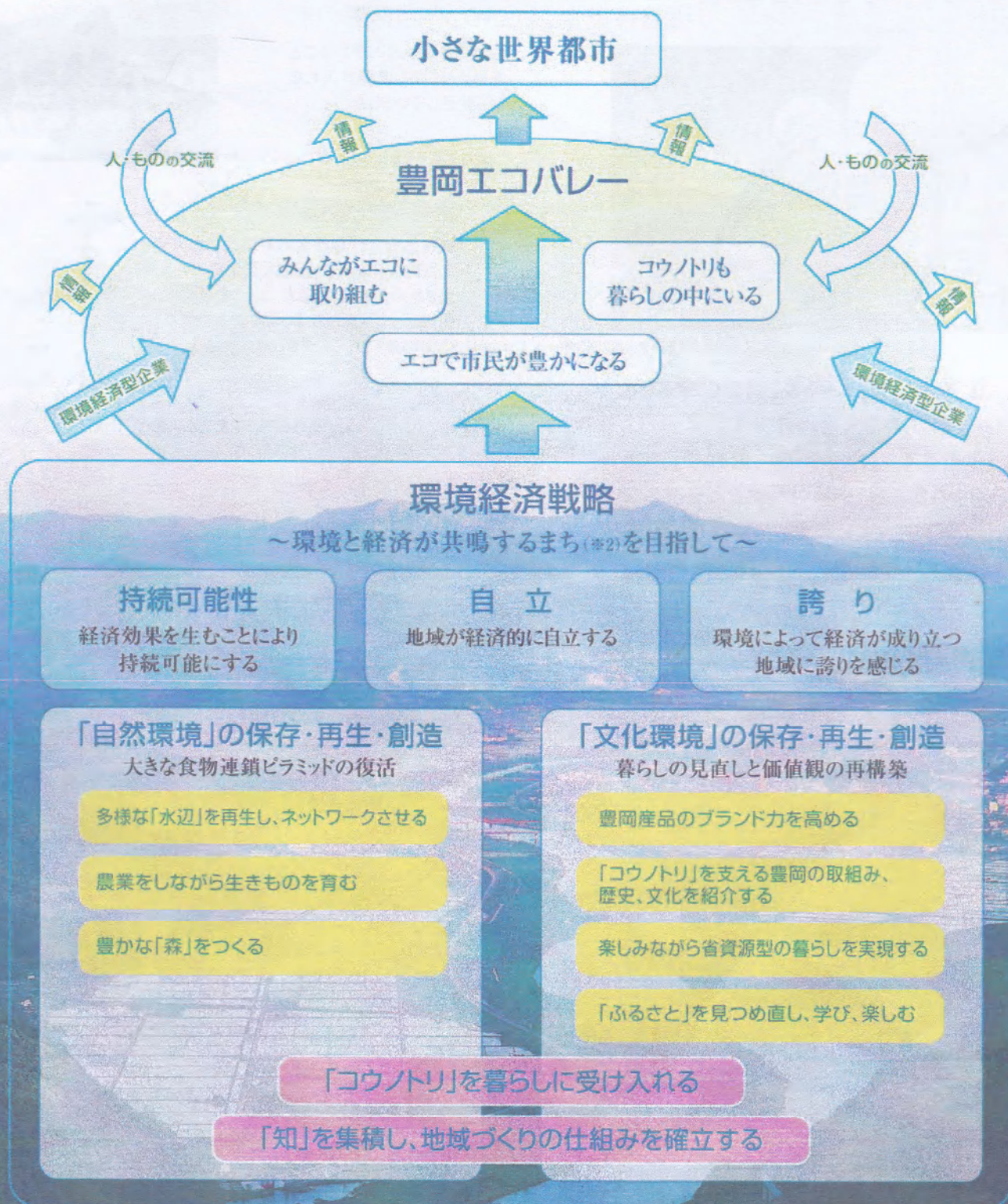
人口規模は小さくても、世界の人々に尊敬され、尊重されるまち、“小さな世界都市”を目指して、豊岡は挑戦を続けます。

2. コウノトリ野生復帰の取組みの体系

コウノトリ野生復帰の取組みは、豊岡の自然を舞台に、歴史や伝統を見つめ直しながら人・もの・知恵などをつなぎ、取組みを広げていく「まちづくり」の過程に他なりません。コウノトリ保護100年の歴史の上に、「自然環境」と「文化環境」の保存・再生・創造の取組みを重ね、新しい風景をつくりあげていくことが、豊岡の魅力を最も際立たせることになるものと信じます。「豊岡モデル（※1）」の典型として、コウノトリ野生復帰の取組みを今後も続けていきます。

（※1）豊岡にある資源を活かしながら、様々な分野の取組みを有機的に連携させ、その連携を拡大しながらまちづくりを進めるプログラムのあり方。（平成18年度策定「豊岡市基本構想」より）

（※2）環境を良くする取組みと経済活動が、相互に刺激しあいながら互いを高めあっていくまち



3. コウノトリ野生復帰

かつて、日本で暮らしていたコウノトリは、昭和46年(1971年)豊岡を最後に日本の空から姿を消しました。兵庫県・豊岡市は、昭和40年(1965年)から人工飼育に取り組み、平成17年(2005年)初の放鳥に成功しました。そして、現在、約80羽のコウノトリが豊岡の空を悠然と舞っています。豊岡はこれからもコウノトリの生息地保全に努めていきます。

コウノトリってどんな鳥?



ドジョウを捕まえた

体長が約1.1メートル、羽を広げると2メートルにもなる大型の鳥です。

体重は4~5キログラム、肉食で、魚類をはじめカエル・ヘビ・バッタなどの生きた小動物をエサとします。大食漢で、飼育下では1日に約500グラムを食べます。

コウノトリが生きていくためには生態系ピラミッドが必要です



コウノトリは里の鳥

かつてはコウノトリがいることを当たり前として受け入れながら生活していました。



登校する子どもたちを見送るコウノトリ

S30年代以降

生息環境の悪化

戦後の圃(ほ)場整備や河川改修によって湿田は姿を消し、川と水路が分断され生きものは激減しました。また、農業の使用によって生きものはなくなり、コウノトリの体も蝕まれていきました。



人工巣塔の下で農業を散布

提供: 神戸新聞社

S46 野生コウノトリが絶滅

H1 初の繁殖に成功

人工飼育の開始から25年目に、ようやくヒナが誕生しました。以降増殖活動は軌道に乗り、毎年ヒナが生まれています。現在では100羽を超えています。



▲初のヒナ誕生

H17 試験放鳥の開始

9月24日、最初の放鳥が行われました。コウノトリは34年ぶりに豊岡の天空を舞いました。

コウノトリ放鳥



H19 放鳥コウノトリのヒナ誕生、巣立ち

放鳥したコウノトリにペアができ、卵を産みました。その卵からヒナがかえり、7月31日、日本の自然界で46年ぶりに巣立ちました。

人工巣塔での親子



提供: 兵庫県立コウノトリの郷公園

H27 100羽目の巣立ち

コウノトリ放鳥から10年。豊岡のコウノトリから生まれたヒナは、9年連続して野外で巣立ちし、ついに100羽目を突破しました。

4. 環境経済戦略 ① 環境創造型農業

農薬や化学肥料に頼らず、田んぼの様子を見抜き、
農業をしながら多様な生きものを育む「考える農業」

栽培技術「コウノトリ育む農法」

おいしいお米と多様な生きものを育み、コウノトリ
も住める豊かな文化、地域、環境づくりを目指す。

1. 農薬の不使用または7.5割削減
2. 化学肥料の栽培期間中不使用
3. 温湯消毒(種もみをお湯で消毒する)
4. 中干し延期(オタマジャクシがカエルになるまで田んぼの水を残す)
5. 生産者による生きものの調査
6. 早期湛水(田植えの1ヶ月前から田んぼに水を張る)
冬期湛水(冬のあいだ田んぼに水を張る)
7. 深水管理(田んぼに深く水を張る)など

コウノトリが
舞い降りる
自然環境の広がり



田植え直後の田んぼ



たくさんのドジョウ

ブランド化 コウノトリをシンボルとして
手間に見合った価格で販売



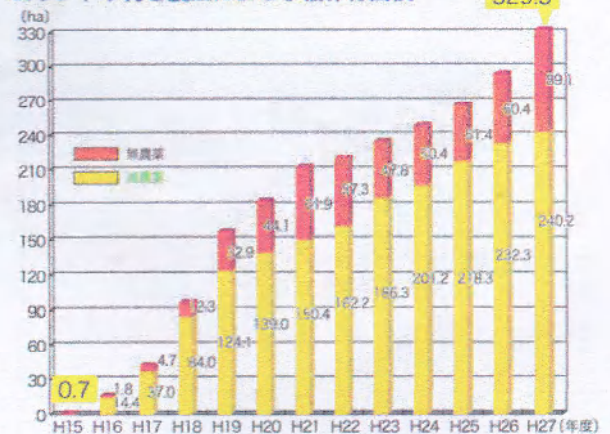
育む農法のコシヒカリ



育む農法の酒米で作った日本酒

栽培面積の増加

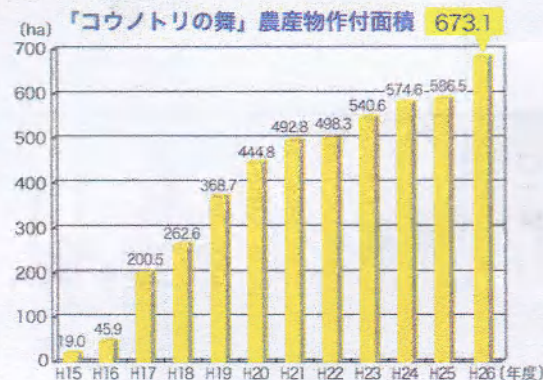
コウノトリ育む農法による水稲作付面積



市の認証ブランド「コウノトリの舞」



残留農薬が国基準の1/10以下
栽培方法・検査結果の公表などに加え
(水稲) 化学肥料・農薬の使用が
慣行の1/2以下
(野菜) 環境に配慮した施肥



「コウノトリの舞」店頭風景

② コウノトリツーリズム

- コウノトリをはじめとする豊岡の自然、歴史、文化を知る、楽しむ
- コウノトリ野生復帰を学び、参加する

毎年
約30万人が
来訪

コウノトリ
文化館



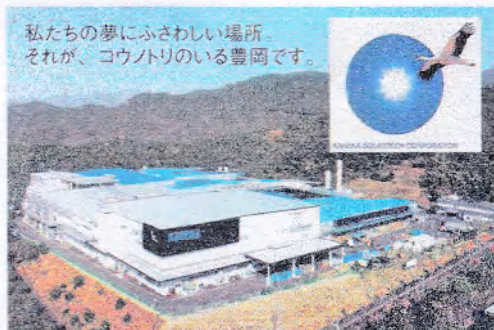
見学者でにぎわう



3 さまざまな企業取り組み

環境を良くする取り組みが経済効果を生む。
経済効果が生まれるから環境を良くする取り組みが
活発になる。その結果さらに経済効果が高まる。

太陽電池の製造

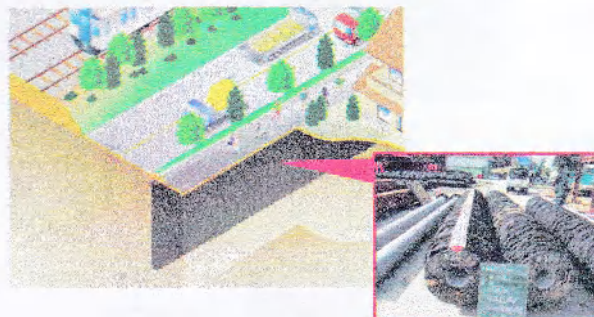


CO₂を出さない
発電機器



販売による利益

廃タイヤの振動伝播防止材



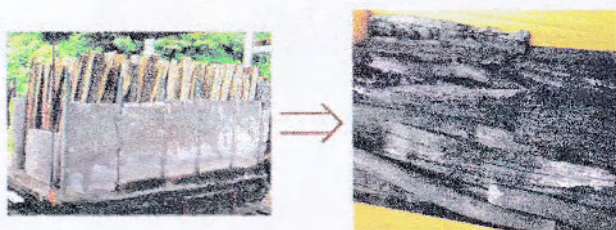
廃棄物減少
+振動緩和



販売・施工に
よる利益

廃タイヤ製の杭を並べて、振動を半減
大阪モノレール沿線で施工

間伐材 → 木炭



森林環境保全



販売による利益

ペットボトル → ビニール袋



廃棄物減少
+CO₂削減



販売による利益

豊岡にこだわった商品、
豊岡で作られた安全・安心な食品の販売施設

環境創造型農業拡大
+地場産業振興



販売による利益
+地域経済活性化



コウノトリ本舗



みんなで 取り組んでいます！

～あつまる・くっつく・つながる～

川

＜円山川水系自然再生＞



河川敷の湿地面積を3倍にするなど、河川の自然再生が進んでいます。

自然体験

＜子どもの野生復帰＞



子どもたちが道徳観や正義感、「ふるさと豊岡」を愛する気持ちを取り戻す取り組みが行われています。

山

＜地域参加の森づくり＞



市民・企業が参加して里山の整備が行われています。

田んぼ

＜田んぼの生きもの調査＞



消費者と農業者が生きものへのまなざしを育んでいます。



エコツーリズム

＜コウノトリツーリズム＞

湿地再生や環境保全活動に参加し、コウノトリ野生復帰に貢献する新しい形のエコツーリズムです。



湿地

＜湿地再生とネットワーク化＞

核となる大きな湿地を再生し、小さなビオトープと環境創造型農業の農地を増やす「湿地のネットワーク化」を進めています。



共生

＜生きもの共生の日＞

いのちのつながりや生きものとの共生について考える授業を小学校で行っています。



【発行】兵庫県豊岡市

【お問合せ】〒668-8666 兵庫県豊岡市中央町2-4

豊岡市コウノトリ共生部コウノトリ共生課

TEL (0796) 21-9017 FAX (0796) 24-7801

URL <http://www.city.toyooka.lg.jp>

E-mail kounotorikyousei@city.toyooka.lg.jp

平成28年1月改訂



ベジタブルインキを使用し、再生紙に水なし印刷をしています。